



今回は、社会連携セミナー「さくら塾」についての報告です。

◇ 社会連携セミナー「さくら塾」とは

社会連携セミナー「さくら塾」は今年度で3年目を迎えました。平成26年度は全12回、平成27年度は全13回、実施しています。講師は大学の先生や企業の方、地域で活躍中の方など様々で、毎回、それぞれの講師の方の専門分野に関心のある生徒が集まります。「SGH課題研究の一環として」「自分の進学や諸希望職種と関わるから」「関心のある学問分野、職業だから」など、生徒の参加理由も様々です。

◇ 7月20日 第1回さくら塾 中部学院大学准教授・竹ノ下祐二先生

霊長類学やヒトとゴリラの共生について学びました。霊長類に関するフィールドワークや市民向けイベントは、竹ノ下先生の講演会を起点にはじまりました。

竹ノ下祐二先生（霊長類学者）の講演会に希望者 15 名（生徒 14 名、保護者 1 名）が参加しました。演題は「ゴリラがつなぐ人と森」。ご専門のゴリラの話のほか、ゴリラと現地アフリカの人々の共生をめざしたエコツーリズムの話がうかがえました。

アフリカやアジアの熱帯雨林を守るうえで、なぜ大型類人猿は重要度が高いのか。現地の人々の現金収入確保のためのエコツーリズムと自然保護とのあいだに矛盾はないのか。課題解決のための「物語をつむぐエコツーリズム」とは何か。詳しくお話していただきました。

東山動物園でゴリラの行動観察を行っている生徒、SGH 課題研究で熱帯雨林の保全問題に取り組んでいる生徒、野生生物に関心のある生徒など、様々な生徒が講演を聴きました。

竹ノ下先生からは、本校 SGH 霊長類研究チームが助言・指導をいただいています。右の写真は、東山動物園でのゴリラの行動観察研究の報告の様子です（中部学院大・関キャンパスにて）。こうした積み重ねが学会発表につながりました（関高 SGH 情報 8 号参照）。



◇ 8月25日 第2回さくら塾 スターバックス社・コミュニティコネクション

フェアトレードが、途上国の労働環境や自然保護の問題と深く関わることを学びました。フェアトレード、途上国への教育支援活動、熱帯雨林の保全運動の研究は、このイベントからはじまりました。

希望者 25 名がスターバックス社の CSR「コミュニティコネクション」に参加しました。CSR とは Corporate Social Responsibility の略で、企業が様々な事業を通じて社会に貢献する責任を指します。

今回は、関マーゴ店とモレラ店の店長さん（長瀬真梨恵さん、小林雪江さん）が来校、参加者全員でフェアトレードコーヒーの試飲（Italian Roast）を楽しみながら、フェアトレードに対する取り組みについて学び、グループに分かれて話し合いをしました。

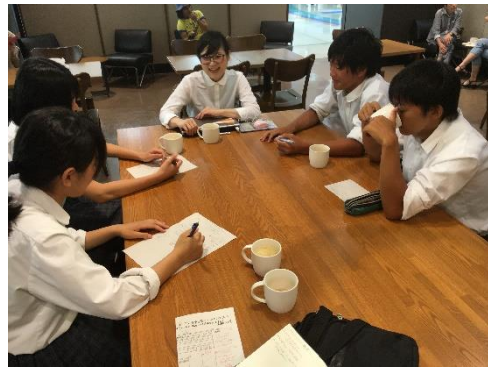


フェアトレードや途上国での教育支援、熱帯雨林の保全とフェアトレードの関係など、さまざまな問題に関心を持った生徒が集まりました。文化祭ではこのメンバーでカフェを開き、「関高生や教員、保護者の方々に、フェアトレードを知ってもらおう」ということになりました。

またこの「コミュニティコネクション」を開くにあたり、どんな内容にするか、有志の生徒がスタバマーゴ店を訪問し、長瀬店長さんと打ち合わせを行いました(右写真)。こうした取り組みが、文化祭当日の「DDGカフェ」(SGH 情報第 18 号参照)や税所篤快さんの講演会(同 37 号参照)へと発展しました。

フェアトレードに関心を深めた生徒の中には、JICA や大学サークルを訪問し、インタビューを行った人たちもいます。

右の写真は、愛知大学の学生グループ SEED の横井謙一(大学 4 年生)さんへのインタビューの様子です(愛知大学笹島キャンパスにて)。SEED は国際協力をめざす愛大生のグループで、「お買い物でできる国際協力」をモットーに、フェアトレードの普及活動に力を入れているそうです。横井さんからは、愛大生協での商品販売の様子、名古屋市内各地の大学や高校と連携したイベントのお話をうかがいました。



◇ 9月17日 第3回さくら塾 県立多治見病院医師・早稲田紘士先生

医師や看護師など医療系の仕事を希望する生徒、心理学や精神疾患に関心のある生徒が集まりました。

精神科医・早稲田紘士先生(県立多治見病院)の講演に、希望者 24 名が参加しました。早稲田先生の講演会は今年で 3 回目を迎えました。演題は「心と心の病を考える」。「心とは何か、心の病とは何か」というテーマに関し、研究・臨床の両面からのお話をうかがいました。

「心とは何か」「心の病の定義とそのむずかしさ」「患者や家族の苦しみ」「精神科医の仕事」「発達障害とうつ病が増加しているというのは本当か」。

興味深いテーマの数々に、一同聴き入りました。早稲田先生はもともと文学部で心理学や芸術論を専攻した経験のある先生。文理の垣根を平然と越える話題が続きました。講演終了後も一部の生徒が残り、活発な質疑応答が行われました。

<参加した生徒の感想>

■「心と心の病」について学んで、「どんな病気」よりも「患者が何を求めているか」を考えるほうが大切だということを知りました。私は、患者の苦しみに寄り添える看護師になりたいと思っています。患者の人生の中でどういう苦しみなのかを分析したり、患者の心を読んだりすることで、患者の苦しみに寄り添っていきたいです。

■さくら塾を受講して、患者さん一人ひとりに合った治療をしていく大切さが分かりました。ただ病気を治すだけじゃなくて、どうすれば患者さんが心も身体も元気になれるのか、それは医療に従事していく上でとても大切な考え方だと思います。私は看護師になりたいので、患者さんがどうしたら気持ちよく生活できるのかを考えられる看護師になりたいと思います。



◇ 10月4日 第4回さくら塾 京都大学防災研究所・加納靖之先生

京都大学防災研究所助教の加納靖之先生の講演に、自然科学部を中心に、地球環境科学や地震、郷土史に関心のある希望者 26 名が参加しました。加納先生のご専門は、「大地震の前後に見られる地下水の変動とそのメカニズム」「古文書などの歴史史料による過去の地震についてのデータ分析」などです。

県内の上宝観測所でも研究を続けている加納先生は、飛騨をフィールドとした研究を継続中であり、岐阜の郷土史料を生かしての地震のメカニズムの研究について、詳しいお話をうかがうことができました。

幕末の安政 5 (1858) 年、飛騨地域を襲った大地震の被害について、各地の活断層の調査を進めると同時に、古文書に記されている被害状況を調べ、地震の規模や被害の実相に迫るアプローチは、文系・理系の学問の枠組みを超えるものであり、研究の最前線の在り方について考えるよい機会となりました。くずし字を用いた江戸時代の古文書を解読する際のアプリが開発されているなど、楽しいお話もうかがえました。



◇ 10月8日 第5回さくら塾 学校法人立志舎・貝田充郎先生

東京法律・IT 専門学校 (学校法人立志舎) の貝田充郎先生の講演・ご指導に、希望者 72 名が参加しました。東京法律・IT 専門学校といえば、各種公務員試験・就職試験・資格取得で実績を挙げている学校。社会人として必要な立ち振る舞い、言動についての指導に関しては文字通りのプロフェッショナルです。

SGH 活動では、フィールドワークやインタビュー、セミナーなどの活動を通じ、外部の方と接する機会が多くあります。当然、マナーよく活動することが求められます。さらには、大学の面接試験では、高校での研究履歴や今後のキャリアプランについて聞かれます。自身の経歴や将来について、相手に正しく伝える表現力を身に付けることも、SGH 活動の目標のひとつです。先生からは、社会人としての対人マナー、コミュニケーションについて、実際のご指導を交えながら教えていただきました。



◇ 11月18日 第6回さくら塾 運動器機能解剖学研究所・林典雄先生

硬式野球部・サッカー部・バレー部等の体育系部活動の生徒を中心に、希望者 75 名が集まりました。講師は、一昨年以来お願いしている林典雄先生 (中部学院大学学事顧問、運動器機能解剖学研究所) です。

プロ野球選手やVリーグ選手等、トップアスリートの治療もこなす先生です。「機能解剖学的触診技術を基礎とした治療技術」について、まずは骨格や筋肉のしくみに関する詳しい講義を受け、次に超音波エコーを使った診断をもとに、筋肉や骨の動きを確認しながら、合理的な治療やストレッチの理論を学びました。

先生の著作は中国語や韓国語にも翻訳され、その理論や経験は、広くアジアで共有されつつあります。研究や医療活動におけるグローバルズムの在り方を知る意味でも、貴重な機会となりました。講演終了後も、こころよく診察や質疑応答に応じてくださった先生。すべてを終えると、



「講演のためこのあと大阪に移動する」と、足早に関高をあとにされました。

◇ 12月3日 第7回さくら塾 e-Education 創設者 税所篤快先生

希望者 31 名、一般 3 名が集まりました。今回のさくら塾の企画・司会・コーディネーターは生徒代表が務めました。昨年度の税所さんによる講演に触発され、本年度の課題研究で「途上国への教育支援」をテーマに選んだ生徒たちです。

前半は税所さんによる講演。バングラデシュで学校の先生が不足している現状を目の当たりにし、自身の経験から DVD による映像授業を広げる活動を始められたそうです。その後、ヨルダン、ルワンダ、フィリピン、インドネシア、パレスチナのガザ地区、未承認国家のソマリランドにまで活動を広げられているとのことでした。



後半はフリートーク。生徒と税所さんとの白熱したトークが続きました。途上国で学校建設を進めているジースプレッド社の若尾守康さん（本年度 SGH 講演会講師）、美濃加茂国際交流協会の方、本校卒の中学教員の方も参加され、有意義な会となりました（詳しくは関高 SGH 情報第 37 号に掲載）。今後も、地域に開かれたイベントを企画したいと思います。

◇ 12月8日 第8回さくら塾 関高同窓生、県教職員課の先生方

希望者31名を対象に、本校卒業生の小関雅弥先生（武儀東小）と早川翔子先生（可茂特別支援学校）、県教職員課の土肥義史先生から、日々の仕事の内容や教職のやりがいについて、詳しく語っていただきました（詳しくは関高SGH情報第40号参照）。

「子どもが成長する瞬間を見届ける感動や喜び」（小関先生）。「今までできなかったことが、苦労を積み重ねてできるようになった時の喜び」（早川先生）。熱のこもった臨場感あるお話に引き込まれた、あっという間の60分でした。



小学校の英語教育必修化、国際教育、増え続ける外国人児童・生徒、地域における多文化共生など、学校や教師の仕事も、グローバル化の大きな波に直面しています。今年度の課題研究で、途上国の教育支援についての問題に取り組み、実際に小学校の日本語・国際教室や民間のボランティア活動に出かけたグループもありました（詳しくは関高 SGH 情報第 21・29 号参照）。

今年度も「さくら塾」では、生物多様性、フェアトレード、医療、防災、教育、福祉など、様々な問題を取り上げました。今後も「さくら塾」は、グローバルとグローバル、社会と高校をつなぐ窓口・接点として、活動を推進します。

